

◆梶村茉莉子さんの「米国留学・ヨルダン実習たより」

本学会法人会員の日本アイ・ビー・エム社から米国に派遣留学をされ、その後ヨルダンでの教育プログラムの実習をされている梶村茉莉子さんから「留学・実習たより」が本メルマガ編集部に届きました。

梶村さんは、本学会の知の創造研究部会や年次大会で発表されたことがあり、本学会の活動にも積極的に参加されてきました。

梶村さんの米国大学院における教育内容や、卒業後のヨルダンでの教育実習プログラムなどの体験談を本メルマガでお伝えしたいと思います。

前号で紹介した五十嵐さんの留学英国たよりに続き、今回の梶村さんの米国・ヨルダン実習たよりにみる女性会員の国際的な活躍は、私達に希望を与えてくれます。

梶村さんの体験記は、これからの企業のグローバルなソーシャル活動のあり方に示唆を与えてくれるとともに、本学会員にとって異文化間の知の交流のきっかけになることが期待されます。

(知の創造研究部会長 植木英雄)

学会員の皆様、ご無沙汰しております。日本アイ・ビー・エムの梶村茉莉子です。私は、昨年夏に米国フィラデルフィアにあるペンシルベニア大学(the University of Pennsylvania)の教育学大学院にて国際教育開発プログラムの修士課程に進学しました。

日本アイ・ビー・エムでナレッジ・マネジメントの推進活動を行っていたことや知の創造部会で研究や学術理論の興味深さを知ることができたこと等がきっかけで、大学院進学に興味を持ちました。企業における人材・知の開発という視点から、教育学全般ではどのような議論がされているのかを理解し視野を広げること、“Critical Thinking”のスキル、そして英語でのコミュニケーション能力を向上することを目的としフィラデルフィアに行くことを決めました。

国際教育開発プログラムでは、必修の教育政策や統計学等の授業を含めて卒業するのに10科目の授業を完了する必要がありました。教授たちも様々なバックグラウンドの方がいらっしやう、私は特に理論と実践の双方に着目し実際に教育政策に関わっているプラクティショナーの先生たちに非常に多くを学びました。

よく言われることではありますが米国は移民の国であるのと同時に様々な国と地域からきた留学生がいます。非常に重視されるのは自分の意見を誰が聞いても読んでも分かるように発信することでした。ライティング能力向上の為に、大学にいるライティングコーチと呼ばれるプロに何度もレポートの添削をお願いし、推敲を繰り返しました。また、所謂論文やレポートだけでなく、ソーシャルメディアを駆使した課題も多々あり、米国でソーシャルメディアがどれだけ根付いているのかということを実感することが

できました。

私は、米国ならではの経験がしたいという思いから、週一回フィラデルフィアにある NPO で移民の方に英語を教えるチューターをしていました。そこでは移民を受け入れるために働く多くの米国人プロフェッショナルと出会うことができました。私も留学生として米国生活に慣れる必要がありましたが、同じ様に米国の生活に慣れようとしているという意味で似た境遇の移民の方たちとお会いすることができて私も頑張ろうと思うことができました。

また、ペンシルベニア大学には日本人が非常に少ないため、大学内でも日本語のチューターを行いました。日本を応援して下さっている方たちが世界の様々な国と地域にいることがわかり誇りに思いました。あっという間にフィラデルフィアでの生活は終わり、先月卒業式に出席をしました。

現在は大学院の現場実習のためにヨルダンに滞在しています。ヨルダンではシリア難民の子どもを対象とした教育プログラムに携わっています。企業で人材投資するのと同様、ヨルダンでも市場で活躍できる人材育成のために政府や国際機関が様々な政策やプログラムを提供しています。こちらでも教育現場で奮闘するプロフェッショナルから多くの刺激を受けています。

帰国いたしましたら、米国での授業内容やヨルダンでの実習内容についてご報告をさせて頂きたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(梶村 茉莉子)

●次ページにメールに添付されていた梶村さんの現地での写真があります。(編集者)

◆ 梶村茉莉子さんの「米国留学・ヨルダン実習たより」の添付写真（メルマガNo. 82）
★ グループワークの様子



★ 野球観戦



★卒業式



★ヨルダンの前国王の通っていたモスク

